

豊島区産業振興指針 取組状況一覧

資料2

指針1： 産業振興に向けた都市基盤づくり SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針	進捗状況【2020年4月～2021年3月実績】	評価	コロナの影響	産業振興指針の方針及び取り組みの方向性に対する関連事業	今後の方向性
①池袋副都心の再生	池袋駅周辺地域では、2019年、2020年にHareza池袋や複数の民間都市開発プロジェクトに加え、池袋西口公園の劇場化や防災公園の整備が完了します。さらに駅直近の複数の地区で大規模な都市開発が検討されるとともに、環状5の1号線の整備に伴う池袋駅前の明治通りの再編、東西デッキや地下通路、駅前広場の整備など公共施設の再編・整備の検討が進んでいます。 ダイナミックに変わる池袋駅周辺地域を「文化と生活・産業が創発するまち」となるように、国内外で活躍する企業の集積を図り、文化交流機能との連携強化による産業育成とともに、その受け皿となる高質なオフィス環境等の空間整備を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ■Hareza池袋グランドオープン(7月) ・8つの劇場空間に隣接する約500坪のオフィス ■東池袋一丁目地区再開発事業都市計画決定(9月) ・サンシャインシティに匹敵する大型イベントホール ・エリア最大級となる1,000坪超のオフィス ■としまみどりの防災公園(愛称:イケ・サンパーク)部分開園(7月) ■としまキッズパーク開園(9月) ■としまみどりの防災公園(愛称:イケ・サンパーク)全体開園、ファーマーズマーケット開催(12月) 	計画以上に進捗した	影響があった	池袋副都心再生推進事業【既存】 東池袋一丁目地区市街地再開発事業【新規】	<p>《現状の課題》 ◇各施設の知名度向上</p> <p>《今後の方向性》 ◇東池袋一丁目地区再開発(2025年度竣工予定)</p>
②高度な防災機能を備えた都市づくり	東日本大震災に続き、熊本、北海道で震災が発生するなど、震災のリスクが高まってきています。今後30年以内に南関東で直下型大規模地震が発生する確率は70%といわれており(地震調査研究推進本部が発表)、企業活動を支える上で防災基盤の整備は急務となっています。 いつ発生するかわからない大地震などの自然災害に備え、備蓄物資の確保や災害時の施設開放など来街者や就業者の安全・安心の確保に努めます。また、平成27(2015)年7月の池袋駅周辺地域の都市再生緊急整備地域指定を受けて、公民連携により都市開発事業等に合わせた防災機能を確保していくと共に、企業の業務継続計画(BCP)策定を支援します。 また、「燃え広がらない・燃えないまち」を実現する「木密地域不燃化10年プロジェクト」で、東京都が進める特定整備路線(都市計画道路)の整備と合わせた沿道まちづくりの中で、商店街のにぎわいと日常生活を支える店舗機能の充実に取り組んでいきます。	<ul style="list-style-type: none"> ■居住環境総合整備事業 ・まちづくり協議会の開催:18回 ・まちづくりニュースの発行:12回 ■不燃化特区推進事業 ・老朽建物除却助成90件 ・戸建建替え促進助成59件 ■特定整備路線沿道不燃化・沿道まちづくり推進事業 ・防災街区整備事業:1件 ・建築助成:27件 ■感震プレーカー設置補助事業(6月) ■新型コロナウイルス感染症拡大防止キャンペーン ・配布用の消毒液とマスクのセット作成(7月) ■としまみどりの防災公園開園に合わせて公園が有する防災機能の展示会を実施(11月) ■新型コロナウイルス感染症対策を考慮した救援センター ・立ち上げ運営訓練の実施(11月～1月) ・立ち上げと運営のDVDを作成(3月) 	計画通りに進捗している	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■居住環境総合整備事業【既存】 ■不燃化特区推進事業【既存】 ■特定整備路線沿道不燃化・沿道まちづくり推進事業【既存】 ■地域防災計画・都市再生安全確保計画推進事業【既存】 ■帰宅困難者対策関係事業【既存】 	<p>《現状の課題》 ◇特定整備路線の事業化により分断される商店街について具体的な街づくり計画を立案し実現に向けた事業展開を図ることが必要になっている。 ◇想定帰宅困難者数を受け入れる一時滞在施設の継続的確保 ◇新型コロナウイルス感染症拡大期における一時滞在施設での感染症対策</p> <p>《今後の方向性》 ◇特定整備路線の事業の進捗に合わせ、協議会等を通じた啓発活動を行うことで、建替えやまちづくり機運を高め不燃領域率の向上を目指す。 ◇としまみどりの防災公園を中心とした区内公園を活用した防災対策訓練等の実施 ◇防災備蓄品の見直し、活用等による廃棄物の削減 ◇帰宅困難者対策の連携協力に関する協定先の拡充</p> <p><small>※「木密地域不燃化10年プロジェクト」は、令和2年度(平成32年度)をもって終了とし、令和元年12月に、今後、東京が目指すべき大きな方向性を示すために策定した『「未来の東京」戦略ビジョン』において、2040年代の目指す姿として『災害の脅威から都民を守る強勁で美しい東京』を掲げるとともに、2030(令和12)年に向けた戦略として、戦略8「安全・安心なまちづくり戦略」を示し、「燃え広がらないまちづくり推進プロジェクト」として、不燃化の取組を更に推進することとし、不燃化特区制度を5年間延伸をしています。</small></p>
③環境都市づくり	便利で快適な都市を創出する一方で、活力を維持しながら環境への負荷を最大限減らしていくことが次世代への責務でもあります。 今日、事業者が環境対策に取り組むことは、CSR(企業の社会的責任)の観点からも必須になりつつあると言えます。技術革新に積極的に取り組み、地球環境に配慮した企業活動を推進する事業者を積極的に支援することで、低炭素型都市への転換を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■省エネ診断受診:32件 ■省エネ機器導入に対する助成金交付申請:16件 ■エコアクション21認証取得に対する助成金交付申請:2件 	計画通りに進捗している	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■事業者向け省エネセミナー【既存】 ■産業協会等関係機関への周知強化【既存】 ■メルマガ、ビジサポにおける周知【既存】 	<p>《現状の課題》 ◇省エネ診断の受診促進</p> <p>《今後の方向性》 ◇省エネ診断制度の周知 ◇現方針に基づき取り組みを進めていく</p>
④セーフコミュニティの推進	日本一の高密都市である豊島区には、様々な機能が集積し、多様な人々が暮らし活動する一方で、犯罪や事故、災害対策など高密都市ならではの課題があります。 そうした課題の解決に向け、豊島区ではWHOが推奨する安全・安心まちづくりを進める「セーフコミュニティ」の国際認証取得に取り組み、平成24(2012)年11月、日本で5番目、東京で初めて取得しました(平成30(2018)年2月再認証取得)。 今後も「安全・安心創造都市」の実現に向け、事業者との連携もより一層強化し、生活の安全と健康の質を高めていくまちづくり活動を推進していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ■セーフコミュニティ推進協議会の開催:2回 ※うち1回は書面開催 ※令和2年度委員:139名 ■対策委員会の開催:15回 ※令和2年度委員:193名 ■外傷サーベイランス委員会開催:2回 	計画通りに進捗している	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■救急搬送データ分析【既存】 ■SC普及啓発【既存】 	<p>《現状の課題》 ◇推進組織間の連携強化</p> <p>《今後の方向性》 ◇推進組織間の連携を強化するとともに、区民・行政・事業者等との協働を進め、取り組みを継続していく。 ◇セーフコミュニティ国際認証再々取得に向けた事前指導を実施し、重点テーマごとの今後の活動の在り方を検討していく。</p>

指針2： 中小企業者の経営基盤の強化

SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針	進捗状況【2020年4月～2021年3月実績】	評価	コロナの影響	産業振興指針の方針及び取り組みの方向性に対する関連事業	今後の方向性
①相談機能の充実	区内企業や個々の商店が抱える事業承継への対応、売上の停滞・減少、人手不足、経営者の高齢化による後継者不足など、多様化する経営課題に対応するため、これまでのとしまビジサポにおけるワンストップサービスに加え、庁内他部署をはじめ、士業、産業団体、金融機関、東京都他の公的機関、教育機関、民間企業などとの連携を強化します。連携団体の強みを活かした効果的・効率的な事業者支援を展開するため、豊島区はプラットフォームとしての役割も担っていきます。また、専門家派遣や民間企業等と連携したアウトリーチ型の相談機能の導入を検討します。	<ul style="list-style-type: none"> ■区内商店街小規模店舗へのアウトリーチ：中止 ■特定創業支援事業：証明書発行：64件 	更なる強化が必要	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジネスサポートセンター【既存】 ■産業競争力強化法における創業支援事業認定【既存】 	<<現状の課題>> ◇個々が抱える課題の多様化 <<今後の方向性>> ◇プラットフォームとしての役割強化 ◇各団体等との連携強化 ◇アウトリーチ事業の再開
②売上拡大サポートの強化	区内事業者の最大の経営課題である「売上増加や販路拡大」を支援するため、ITや企業との連携協定を活用するなど、積極的にチャレンジする事業者を支援します。さらに、近隣区との合同商談会を開催することにより、連携の輪を広げ、広域的な地域の活性化を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■売上拡大相談の実施：86件 ■融資あっせん事業：10,460件（起業・起業以外・コロナ関連 他） ■専門家派遣支援事業補助事業：17件 ■ホームページ作成支援補助事業：38件 ■見本市等出展支援補助事業：20件 ■第14回としまMONOづくりメッセ：中止 	計画通りに進捗している	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジネスサポートセンター【既存】 ■中小企業・起業家向け融資あっせん事業【既存】 ■中小企業・起業家向け補助事業【既存】 	<<現状の課題>> ◇区内事業者の販路拡大支援への対応 <<今後の方向性>> ◇売上拡大相談事業の更なる充実 ◇出店サポート事業の実施
③情報発信の強化	としまビジサポを利用した方の満足度は高いものの、区内事業者のとしまビジサポ支援策の認知度は低迷しています。平成31(2019)年度には、としまビジサポが開設10年目を迎えることから、これを機に必要な支援情報が区内事業者に行き届くよう、区から積極的に商店街を訪問するなど利用促進のための周知を強化します。また、国、東京都、産業・経済団体や金融機関等が実施する支援情報を集積し、としまビジサポの支援と合わせて発信することにより、更なる事業者のニーズに応じた支援の提供や利便性の向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジサポ10周年記念事業の実施 ・記念ロゴ作成 ・メモリアルブック2500部発行 ・起業家紹介パネルの常設展示等（ビジサポ内） ・記念ノベルティの無料配布 ・ビジサポマルシェの実施 ■広報・SNS等を活用した情報発信 ・広報としまへの掲載（2月11日号） ・としまビジネスサポートブックの配布 ・SNSツール等を活用した情報発信（ビジサポホームページ・ブログ）、起業支援サイト「スタビズ」 ・としま企業支援サイトの運営：掲載58件 ・サクラースbiz応援プロジェクトフェイスブックの発行 ・としまビジサポ通信の発行：4回 ・産業マガジンとしま（メルマガ）の発行：11回 	計画以上に進捗した	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジサポ10周年記念事業【*新規】 *令和2年度単年度事業 ■としまビジネスサポートセンター【既存】 ■女性のための起業支援【既存】 	<<現状の課題>> ◇ビジサポの認知度向上 <<今後の方向性>> ◇情報発信方法の見直し
④職場環境の充実	人手不足を解消するためには、経営者が積極的に職場の労働環境を整備することが求められています。経営者が働き方改革への関心と理解を深めるため、としまビジサポにおける労働相談をはじめ、ハローワーク等の関係団体や区の関係所管課と連携し、労働環境の改善に向けたセミナーの開催や情報提供を行います。また、区は平成30(2018)年度から「生産性向上特別措置法に基づく導入促進基本計画」を策定しており、今後も中小企業の生産性の向上に向けた取り組みを支援していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ■社会保険労務士会との協定による労務相談の実施：77件 ■ハローワーク池袋、東京しごと財団との連携によるセミナー、面接会の実施：4回 ■生産性向上特別措置法に基づく先端設備導入計画に係る認定：2件 	計画通りに進捗している	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジネスサポートセンター【既存】 	<<現状の課題>> ◇区内事業者の人手不足への対応 <<今後の方向性>> ◇ハローワーク等関係団体との連携強化

指針3： 起業者支援の強化

SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針	進捗状況【2020年4月～2021年3月実績】	評価	コロナの影響	産業振興指針の方針及び取り組みの方向性に対する関連事業	今後の方向性
①相談サポート体制の整備	としまビジサポは、起業や融資の相談を基本としながら、今後は、区内の産業・経済団体、金融機関などとの連携を強化し、相談業務のネットワークの構築を目指します。これにより、起業希望者や起業準備中の起業家に対し、多角的なサポートを実現します。 また、サポートを受け起業した先輩起業家と、これから起業を目指す人の交流の機会を設けるなど、起業の準備段階から実体験に基づいた相談を気軽に行える環境を整備します。あわせて、銭湯などで始まっている廃業者と起業希望者のマッチングなどの取り組みについても検討を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジサポ連携協定機関との特定創業支援事業の実施 ■女性のための起業塾の開催(8月～11月):全7回 エントリー15名、動画視聴169回、参加者によるプチオンライン交流会(全4回):参加者13名 ■3区合同女性起業家交流会(1/23) 延期 	計画通りに進捗している	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジネスサポートセンター【既存】 ■女性のための起業支援【既存】 	<<現状の課題>> ◇協定機関との連携強化 <<今後の方向性>> ◇オンライン化の推進 ◇テーマの更なる充実
②経営ノウハウ獲得の支援	起業家は、事業のアイデアやイメージはあるものの、ビジネス化に向けた手法や強みの活かし方等に難しさを感じています。個別の起業相談に合わせて、区内産業・経済団体、金融機関、各士業との連携によるセミナーや勉強会を実施し、起業や経営の安定化を実現するための知識やノウハウの習得を支援します。 また、経営者・起業家同士の交流の場を設定し、それぞれのビジネスモデルにあった情報収集や異業種交流により視野を広げるための機会をつくります。	<ul style="list-style-type: none"> ■ビジサポセミナー ・第1回:中止(4/17 巣鴨信用金庫) ・第2回(2/3 日本政策金融公庫) ■勉強会(開催を見送り) ■その他セミナー(11/16 東京海上日動) 	更なる強化が必要	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジネスサポートセンター【既存】 	<<現状の課題>> ◇テーマの更なる充実(他機関との連携) <<今後の方向性>> ◇オンライン化の推進
③起業チャレンジ施設の整備	起業する際の大きな課題として、事務所や店舗の経費的な負担が挙げられています。こうしたことから、豊島区では平成29(2017)年7月に「としまスタートアップオフィス」を開設し、ハード面での起業支援を導入しました。 今後は、小さな起業を目指す場合などにニーズの高い店舗や作業場の確保における支援を、民間の創業支援事業者と連携しながら進めます。単なる貸室事業ではなく、起業者の不安解消や販路確保の支援をはじめ、事業の成否を試すことのできるチャレンジの場の提供を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■スタートアップオフィス入居者:13名(定員15名) ■コマワリキッチン利用登録者29名(2021年3月末時点) ■コマワリキッチン利用者向け広告作成支援(Facebook・Instagram、チラシ、デジタルサイネージ) ■コマワリキッチンファーマーズマーケットへの出展(12/9,12/12,12/19:3事業者) ■コマワリキッチンサンシャインシティとの連携イベント(SDGsを軸とした交流、商品開発等):12/9 	計画通りに進捗している	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまスタートアップオフィス事業【既存】 ■創業チャレンジ支援施設開設事業補助金【既存】 	<<現状の課題>> ◇起業に向けた個々の課題の多様化 <<今後の方向性>> ◇交流会や勉強会等、ビジネスサポートセンターと連携したきめ細やかな起業支援 ◇起業家のネットワーク強化による地域活性化
④女性の起業支援	女性の起業相談件数は、ここ数年で大きく上昇しています。女性は、生活に密着した業種での起業を目指す傾向があります。また、男性に比べて、生計を立てるための起業よりも、趣味を活かした自己実現のための起業を目指す方が多いのも特徴となっています。 女性起業家それぞれの準備段階に応じた相談体制の整備をはじめとして、起業塾によるノウハウの習得、交流会による情報交換やネットワークづくりなど、「女性の起業」を重点的に支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ISP(池袋ショッピングパーク)チャレンジ出店(1/24～1/26:3事業者) ■女性のための起業塾開催(8月～11月):全7回 エントリー15名、動画視聴169回、 ■女性相談員による個別相談:33件 	計画通りに進捗している	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■女性のための起業支援【既存】 	<<現状の課題>> ◇女性の起業希望者の多様化 <<今後の方向性>> ◇起業の準備段階に応じた継続的支援 ◇女性起業家オンライン交流会の開催

指針4： 商店街の活性化と地域コミュニティづくり SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針	進捗状況【2020年4月～2021年3月実績】	評価	コロナの影響	産業振興指針の方針及び取り組みの方向性に対する関連事業	今後の方向性
①輝く店舗づくり	商店街の活性化にとって「魅力ある店舗」の存在はきわめて重要な要素です。個々の店舗が、いま求められる「もの」や「こと」を的確に捉え、個々の商店が消費者にとって魅力的な商品・サービスを提供できるよう、時流にあったセミナーの実施、売上拡大相談、専門家派遣などの支援を推進します。 また、個店に対する補助金支援に加え、インバウンド対応や事業承継問題など、新たな時代のニーズに沿った情報提供を強化し、経営者の意欲的な創意工夫を促します。	<ul style="list-style-type: none"> ■東京都中小企業振興公社の専門家派遣制度(商店主スキルアップ事業)の周知 ■商店街メール配信(13回) ■ビジサポセミナー：第1回：中止(4/17 巢鴨信用金庫)、第2回(2/3 日本政策金融公庫) ■勉強会(開催を見送り) 	更なる強化が必要	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジネスサポートセンター【既存】 ■としまビジサポセミナー【既存】 ■としまビジサポ勉強会【既存】 ■商店街メール配信【既存】 	<<現状の課題>> ◇個々の店舗状況により、支援策活用の違いがある ◇各種支援事業の認知度が低い <<今後の方向性>> ◇必要な支援策の効率的周知、提供
②地域特性を活かした商店街づくり	豊島区内の各商店街は、地域が持つ豊かな歴史・文化資源などの特性を活かしながら商店街活動を行っています。こうした地域ごとの特性をとらえ、地域の魅力を一層引き出せるよう、商店街と共にまちの賑わいの創出や「安全・安心」の地域づくりを推進します。 【地域特性による賑わいづくり】 ◇池袋副都心とその周辺のエリア “まちづくりと連動した商業機能の集積による賑わいづくり” ⇒高質なオフィスやインキュベーション施設の整備、販路拡大や事業拡大相談・融資 等 ◇文化や歴史資源の多いエリア “国内外の観光客を呼び込むことによる賑わいづくり” ⇒Wi-Fi設置、多言語マップ・HP・メニュー作成 キヤッシュレス化検証 等 ◇その他のエリア “地域の生活や交流を支えることによる賑わいづくり” ⇒イベント補助、街路灯整備、空き店舗対策、先進事例情報の提供 等	<ul style="list-style-type: none"> ■商店街イベント事業補助金の交付(27事業) ■商店街施設整備事業補助金の交付(3事業) ■商店街販売促進事業補助金の交付(3事業) ■商店街連合会商人まつりの実施(全地区中止) ■商店街メール配信(13回) ■商店街街路灯電料補助金の交付(81商店街) ■商店街連合会ファーマーズマーケットへの出店：2日間(12/19、20) ■JPQRフォローアップ支援開催(11/16、17) ■第14回としまMONOづくりメッセ：中止 	更なる強化が必要	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■としまビジネスサポートセンター【既存】 ■としまスタートアップオフィス事業【既存】 ■中小商工業融資事業【既存】 ■としまものづくりメッセ事業【既存】 ■商店街振興事業費補助金(イベント事業、施設整備事業、販売促進事業、空き店舗対策事業)【既存】 ■商店街メール配信【既存】 ■商店街電料補助事業【既存】 	<<現状の課題>> ◇地域ごとの特性をとらえた商店街づくり、街づくり <<今後の方向性>> ◇商店街エリアの特性分析 ◇必要な支援策の効率的周知、提供
③情報技術を駆使した商店街づくり	高度情報化社会において、ITの活用は個店や商店街にとって最も重要な成長戦略の一つとなっています。今後は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、商店街のWi-Fi環境整備や、携帯端末でも見やすく多言語に対応するホームページ作成事業などへの支援を強化します。 また、国ではキャッシュレス決済などインバウンドや、消費税増税などを意識したシステム体制の強化を推進しています。こうした売上げ向上の期待できる先進技術については、積極的に情報を収集するなど、導入に向けた支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ■商店街施設整備事業補助金の交付(3事業) ■商店街販売促進事業補助金の交付(3事業) 	計画通りに進捗している	影響がなかった	<ul style="list-style-type: none"> ■商店街振興事業費補助金(施設整備事業、販売促進事業)【既存】 	<<現状の課題>> ◇情報不足による意識改革の遅れ <<今後の方向性>> ◇情報技術活用の重要性周知
④商店街組織力の強化	まちのにぎわいや活力を創出するためには、まちの価値を高め、商店街の組織力を強化することが重要です。 商店街の組織活動活性化のため、商店会加入促進支援を強化するとともに、地元大学やNPO組織などと連携した地域に根差した商店街づくりを支援します。 また、商店街自らが、商店街の活性化や組織力の強化に向けて積極的に行動することを支援するため、他自治体の成功事例をはじめ、様々な先進的取り組みの情報を、すべての商店街に定期的に提供できるシステムの構築や共有する機会の設定を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■商店街メール配信(13回) 	計画通りに進捗している	影響がなかった	<ul style="list-style-type: none"> ■商店街振興事業費補助金(商店会組織力強化支援事業)【既存】 ■商店街メール配信【既存】 	<<現状の課題>> ◇商店街の会員数減による資金不足、事業担い手不足 <<今後の方向性>> ◇商店街の組織力強化支援 ◇成功事例の情報提供

指針5: 文化と観光による産業振興

SDGsとの関連性:



取組の方向性	方針	進捗状況【2020年4月～2021年3月実績】	評価	コロナの影響	産業振興指針の方針及び取り組みの方向性に対する関連事業	今後の方向性
①観光資源の魅力の向上と創出	平成27(2015)年に策定した「豊島区都市づくりビジョン」では、まちづくりの目標の一つに「文化の彩りと回遊性の広がりが生み出すにぎわいと活力の創出」を掲げています。 人を惹きつける空間の創出、ソメイヨシノやトキワ荘などの「としまオンリーワンブランド」の磨き上げ、地域固有の文化を活用した観光資源の掘り起こしなどに積極的に取り組み、多彩な文化にあふれるまちづくりを促進します。	■トキワ荘マンガミュージアム開設(2020年7月) ■マンガの聖地としま! モニュメント設置(2021年3月) ■ソメイヨシノアーカイブ運営・管理・展示	計画通りに進捗している	影響があった	■トキワ荘マンガミュージアム管理運営事業【既存】 ■南長崎マンガランド事業【既存】 ■トキワ荘通りお休み処事業【既存】 ■ソメイヨシノプロジェクト推進事業【既存】	《現状の課題》 ◇トキワ荘マンガミュージアムのさらなるPR ◇「ソメイヨシノ発祥の地 豊島区」の認知度向上 《今後の方向性》 ◇トキワ荘マンガミュージアムへの来館を促進し、現代マンガ・アニメの原点であるトキワ荘マンガ文化のさらなる発信・周知 ◇ソメイヨシノ発祥地と歴史の継続的なPR
②多様な来街者の受け入れ	商店街などと連携したインバウンド対応力の強化をはじめ、観光案内所の機能強化、分かりやすいサインの整備、ユニバーサル・ツーリズム情報の集約、危機管理体制の検討など、観光客の利便性向上や安心・安全に観光のできる環境を整備することにより、来街者の満足度を高め、更なる誘客に繋げていきます。	■大塚駅周辺の青パト巡回を開始 ■池袋駅周辺の青パト24時間巡回化を開始 ■としま区民センターインフォメーション JNTO認定外国人観光案内所カテゴリー2取得 ■トキワ荘マンガミュージアム、イケ・サンパーク周辺の観光案内標識整備 ■豊島区の文化・観光・交流都市情報アーカイブ「イケ・サークル」を公開	更なる強化が必要	影響があった	■としま区民センター内インフォメーション運営事業【既存】 ■観光案内標識整備推進事業【既存】 ■都市交流推進事業【既存】 ■としま文化の日推進事業【新規】	《現状の課題》 ◇安全安心な街づくりに向けた取り組みの継続 ◇インバウンド対応可能な観光案内所のさらなる周知強化 ◇「イケ・サークル」の認知度向上 《今後の方向性》 ◇観光案内所の周知及びインバウンド対応能力の強化 ◇「イケ・サークル」のさらなるコンテンツの充実
③魅力を高める区内回遊性の向上	地域それぞれの魅力を最大限に引き出すばかりではなく、Hareza池袋、4つの公園、商店街、文化施設など、来街者が集まる拠点や周辺の地域資源と連動し、回遊性を向上させることにより、広がりある賑わいを創出します。	■区内の魅力的な文化観光施設を巡るIKEBUSアトカルツアーの実施 ■南北区道歩行者優先化 ⇒交通規制、荷捌きルール(10月) ■池袋駅案内サイン共通化 ⇒まちサインと連携した多言語対応サインを実現(整備完了7月) ■グリーン大通り・南池袋公園等の公共空間活用事業 ⇒マルシェを社会実験として実施(10月～11月に計7日) ■Hareza池袋の全体開業 ⇒Hareza Towerオープン(7月) ⇒ハレザの日スペシャルウィークイベント開催(8月3日) ・「8(ハ)0(レ)3(ザ)」=ハレザの日とし、各テナント等によるイベントやサービスの連携。	計画通りに進捗している	影響があった	■としま文化の日推進事業【新規】 ■池袋副都心交通戦略推進事業【既存】 ■グリーン大通りエリアマネジメント推進事業【既存】 ■庁舎跡地活用事業【既存】 ■Hareza池袋エリアマネジメント推進事業【既存】	《現状の課題》 ◇マイクロツーリズムの推進等区内の回遊性を促進する取り組みの強化 ◇案内サインへの掲出情報を、随時に最新のものに更新していくことが必要となる。 ◇ソーシャルディスタンスを確保した新たな道路空間の活用方法を模索。グリーン大通り・南池袋公園、南北区道を通じての中池袋公園との連携を進め、エリアマネジメントに基づく住民主体のまちづくりが確立できるよう調整を進めていく必要がある。 《今後の方向性》 ◇民間事業者と連携したマイクロツーリズムの推進 ◇4公園を中心とするエリアマネジメント組織間連携、IKEBUSによる4公園連携強化取り組みを進めていく。
④マンガ・アニメ産業によるまちの活性化	マンガ・アニメに代表されるカルチャーを国内外に積極的に発信するとともに、関連産業との連携を強化することにより、アニメの聖地としてのブランド力を高め、まちの賑わい創出や地域の産業振興を推進します。	■池袋ハロウィンコスプレフェス2020 10月 ■AGFあおぞらマルシェ2020 11月 ■としまマンガ・アニメフェスタ2020 11月 ■IMART(国際マンガ・アニメ祭 令和としま)2021 2月 ■東京アニメアワードフェスティバル2021 3月	計画通りに進捗している	影響があった	■マンガ・アニメ等を活用した観光事業【既存】	《現状の課題》 ◇コロナ感染予防対策を見据えた安全な開催 《今後の方向性》 ◇コロナ感染予防対策を踏まえたリアル開催とオンラインを活用した発信の強化
⑤伝統工芸作品・技術の発信	長きにわたり受け継がれてきた伝統工芸の技術を守り磨き上げること、地場産業のさらなる発展を目指します。 一般社団法人豊島区観光協会との連携やとしまビジネスサポでの支援を積極的に行うことで、商品開発力・情報発信力を高め、海外も含め作品の新たな購買層を開拓します。また、公的機関の表彰制度を積極的に利用し、伝統工芸士の「技術」を広くPRするとともに、教育機関と連携し、伝統工芸技術の保存・継承に取り組みます。 さらに、体験教室や伝統工芸展を通じて、次世代のものづくりへの関心の喚起や観光資源としての集客を目指します。	■常設展示: 庁舎1階ショーウィンドウ、庁舎5階区長室前、としま区民センター1階ショーウィンドウ ■伝統工芸教室の開催: 3業種(手猫友禅(2)、貴金属装身具、べっ甲)月2回実施 ■板橋区伝統工芸展への出展: 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止 ■夏休み親子伝統工芸教室の開催: 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止 ■伝統工芸後継者育成事業: 実習生1名。ステップ2(本格弟子入り)	更なる強化が必要	影響があった	■伝統工芸振興事業【既存】	《現状の課題》 ◇後継者の育成 《今後の方向性》 ◇伝統工芸作品・技術の周知拡大

指針6 産業を支える人材の育成

SDGsとの関連性:



取組の方向性	方針	進捗状況【2020年4月～2021年3月実績】	評価	コロナの影響	産業振興指針の方針及び取り組みの方向性に対する関連事業	今後の方向性
①中小企業における人材の確保	人材確保に悩む中小企業に対して、ハローワークや公益財団法人東京しごと財団などの関係団体と連携しながら、職員採用や育成のためのセミナーの開催、女性・高齢者・外国人等の多様な人材を活用するためのノウハウの提供、途中退職を抑制するための労働環境の整備に向けた支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ■ハローワーク池袋との共催による面接会の実施: 1回 ■東京しごと財団との共催によるセミナーの実施: 3回 ■としま企業支援サイト活用による求人情報の掲載: 2件 	計画通りに進捗している	影響があった	■就労支援事業【既存】	<<現状の課題>> ◇売り手市場の傾向が強まるなかでの事業者の人材確保難 <<今後の方向性>> ◇事業者の人材確保に向けた支援の強化
②多様な労働力の活用	関係団体や庁内関係課と連携し、勤労意欲がありながら雇用機会が得られない女性や若者、定年後も十分に働くことのできるアクティブシニア、今後需要拡大が見込まれる外国人等の就労支援を行います。高度情報化や国際化も視野に入れたスキルアップのための啓発セミナーや講座などを実施することにより、能力開発を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ハローワーク池袋との共催による面接会の実施: 1回 ■東京しごと財団との共催によるセミナーの実施: 3回 	計画通りに進捗している	影響があった	■就労支援事業【既存】	<<現状の課題>> ◇受入れ先事業者の確保 <<今後の方向性>> ◇対象者別セミナー・面接会の実施継続
③次世代の育成	関係団体と連携し、就業体験、ものづくり体験、工場見学等を行い、次世代を担う子どもたちに区内産業の技術に触れてもらうことで、地域産業への愛着を醸成します。また、区内伝統工芸技術の継承を行うため後継者の育成を支援します。さらに、区内教育機関と協働して事業者支援を行うことで、将来の区内事業者への就労意識を啓発します。	<ul style="list-style-type: none"> ■夏休み親子工場見学バスツアー: 中止 ■伝統工芸後継者育成事業の実施: 実習生1名。ステップ2(本格弟子入り) ■としまMONOづくりメッセ社会科見学: 中止 	更なる強化が必要	影響があった	<ul style="list-style-type: none"> ■伝統工芸振興事業【既存】 ■としまMONOづくりメッセにおける小学生社会科見学【既存】 	<<現状の課題>> ◇伝統工芸後継者の育成 ◇地場産業への愛着の醸成 <<今後の方向性>> ◇後継者育成事業の継続 ◇工場見学、伝統工芸展、MONOづくりメッセ等の見学会の継続
④商店街の担い手づくり	区内には後継者不足による廃業などのため、組織活動が低下している商店街が多く、若手リーダーの育成が重要な課題となっています。東京都の実施する若手リーダー育成講座の受講を促進するなど、商店街活動の担い手を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■東京都中小企業振興公社の専門家派遣制度(商店街パワーアップ作戦)の周知 ■商店街メール配信(13回) 	計画通りに進捗している	影響がなかった	■商店街メール配信【既存】	<<現状の課題>> ◇若手リーダーの育成 <<今後の方向性>> ◎現方針に基づき取り組みを進めていく